氏　　名	和　田　匡　史
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博甲第 4833 号
学位授与の日付	平成２５年９月３０日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	Dual Antiplatelet Therapy Can Be Discontinued at Three Months after Implantation of Zotarolimus-Eluting Stent in Patients with Coronary Artery Disease （冠動脈疾患患者において、ゾタロリムス溶出ステント留置後3カ月での2剤併用抗血小板療法は中止できる）
論文審査委員	教授　佐野 俊二　教授　森松 博史　准教授　大藤 剛宏

学位論文内容の要旨

経皮的冠動脈形成術後の２剤併用抗血小板療法(DAPT)継続は出血リスクを増やす。我々は、ゾタロリムス溶出ステント(ZES)留置３か月後にDAPT中止し、アスピリン単独に変更することの安全性について検討した。

冠動脈疾患に対してZES留置を施行した連続168症例を後向きに検討を行った。40症例を除外し128症例をDAPT3カ月群67症例と従来一般的なDAPT12カ月群61症例に分類した。冠動脈造影とクリニカルフォローアップをZES留置後８カ月後と12ヶ月後に行った。評価項目は、出血イベント(大出血及び小出血)、ステント血栓症、主要有害心イベント(MACE)(死亡、心筋梗塞、脳血管障害、標的病変再血行再建率及び標的血管再血行再建率)とした。結果、ステント血栓症及びMACE発症率は２群間で有意差を認めなかった。出血イベントは３カ月群で有意に低い結果であった(1.5% vs. 11.5%, $p<0.05$)。ZES留置３か月後において、安全にDAPTを中止できることが示唆された。

論文審査結果の要旨

経皮的冠動脈形成術後に用いられているゾタロリムス溶出ステント（ZES）は従来のステントに比べ、再狭窄の頻度を減少させた。一方でDES留置に伴う長期間の２剤併用抗血症板両方（DAPT）継続により出欠イベントのリスクを増やしている。

本研究では、第２世代のゾタロリムス溶出ステント（ZES）留置３か月後にDAPTを中止し、アスピリン単独に変更することの安全性について検討した後ろ向き研究である。症例は128症例（DAPT3か月後67例とDATP12か月後61症例）と少ないが、ステント血栓症および主要有害心イベント発生率は２群間で有意差を認めず、出血イベントは３か月群で低値であった。ZES留置３か月後において、安全にDAPTを中止できることを示唆した価値ある論文である。なおこの重要な知見により、多施設研究が計画されている。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。